



和歌山県庁文化国際課 メールマガジン★No.7★

★★★★まえがき★★★★

日本では、12月のことを師走（しわす）と呼んでいます。
 何故、師走と言うのでしょうか。これには様々な説がありますが、「普段はゆったりと構えている先生達も、この時ばかりは忙しさのあまりに、バタバタと走り回っていた為」だとする説が有力です。
 さて、今回のメインテーマは「クリスマス」と「お正月」です。日本では、お正月は家族で過ごすことが一般的ですが、クリスマスと言えば専ら「恋人同士の一日」といったイメージで、私にとっては涙の絶えない一日となります。
 今回は、国際交流員の皆さんが、世界の国々の年末年始を詳しく紹介してくれていますので、これを読んで元気にクリスマスをお過ごしください。
 サラリーマンも学生達も、街行く人々皆がバタバタと行き交う師走。慌ただしい時期ではありますが、そんな年の瀬こそ、少し足を止めて、ゆっくりとメルマガNo.7をご覧ください。



★★★★文化国際課だよ★★★★

スペイン・ガリシア州青少年交流団来県報告

10月28日（日）～11月4日（日）まで、14名の参加者からなるスペイン・ガリシア州青少年訪問団が和歌山県を訪れました。

ガリシア州と和歌山県の交流は、ガリシア州の「サンティアゴへの道」、そして和歌山県の「熊野古道」とが1998年に姉妹道提携を結んだことから始まり、今年7月、知事がガリシア州を訪問した際、ガリシア州首相と『ガリシア州と和歌山県の友好親善関係と連携強化に係る覚書』を結び、今後ますます有意義な交流を進めていくことで合意しました。

10月29日の知事表敬では、ガリシア側からは二度目の受入に関する感謝の言葉が述べられました。知事からは熊野古道の「4つの寛容の精神」（1、老若男女を問わず 2、貴賤を問わず 3、浄不浄を問わず 4、信不信を問わず）について説明があり、7月の訪問時に「サンティアゴへの道」を歩いた時の感想などについても話がありました。

また和歌山大学、東山東小学校での交流をはじめ、湯浅町の重要伝統的建造物群保存地区の見学、田辺市でのみかん狩り、奥熊野太鼓の演奏体験、熊野古道の散策、紀伊風土記の丘の見学などを通して、和歌山の魅力を体験してもらうことができました。

日程後半はホームステイを通して、日本の日常生活や文化を体験し、ホストファミリーとの交流を深めてもらいました。





(写真*ホームパーティーの様子)

3月には和歌山県からガリシア州へ青少年交流訪問団を派遣し、「サンティアゴへの道」を歩いたり、ホームステイなどを体験しながら更なる交流を深めていくことになっています。



★★★★お知らせ その①★★★★



平成 24 年度スペイン・ガリシア州への青少年交流訪問団派遣について

1. 実施期間：平成 25 年 3 月 10 日（日）～3 月 18 日（月）
2. 募集人員：15 名（応募者多数の場合は抽選により参加者を決定します。但し、和歌山県青少年派遣事業初参加の応募者を優先）
3. 対象者：和歌山県内在住または和歌山県内に通学・通勤されている 15 歳以上 30 歳以下の方（和歌山県の学校を卒業された方を含む）で、条件を満たす方（但し中学生は除く）
4. 交流内容：「サンティアゴへの道」散策、ホームステイ、世界遺産視察など
※対象者条件、費用、応募方法など詳細につきましては和歌山県のホームページをご覧ください。（HP の URL は下記のとおり）

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022100/kokusaikouryu/galicia/hakentop.html>



★★★国際交流員による異文化紹介★★★



Merry Christmas! Happy New Year!

イギリスでは、11月頃から町中がイルミネーションなどクリスマス用に

デコレーションされ、町中の店にクリスマスプレゼント用の商品が並びます。

家族や親類・友人同士でプレゼントを贈りあうのが習慣で、また、日本の年賀状のようにクリスマスカードを送りあい、家族の近況を知らせたりします。様々な種類のカードがあるので、クリスマスツリー（25日から始まるクリスマス期間の最終日である1月6日まで飾っておく）などと共に、家に飾って楽しめます。

クリスマスは家族で過ごすことが一般的で、イブではなく、25日にロースターキー（七面鳥）などのクリスマスディナーを楽しみますが、特徴的な食べ物のひとつとして、クリスマスプディングというデザートがあります。日本のクリスマスケーキとは違い、ドライフルーツがたっぷり入った焼き菓子で、寝かせることで味が深くなるため、早くから準備します。



25日はロンドンなどの都会でもほとんどの店が閉まっており、地下鉄やバスも運休します。翌日の26日はボクシングデー（スポーツのボクシングではなくプレゼントの入った箱に由来）と呼ばれる休日で、その次の日からは多くの店でセールが始まり、町中が賑わいます。

お正月は日本ほど大きなイベントではなく、祝日も元日ですが、大晦日のパーティーでは、年が変わる直前に胸の前で交差した手を皆で繋ぎ円になり、“Auld Lang Syne”という歌を歌いカウントダウンをします。“Auld Lang Syne”はスコットランド民謡で、日本ではホタルの光として知られる曲です。



¡Feliz Navidad! ¡Próspero Año Nuevo!

(フェリス ナビダ! プロスペロ アニョ ヌエボ!)



スペイン語圏の国々は、国民のほとんどがカトリック教徒であるため、

クリスマスは各国盛大にお祝いをします。**メキシコ**では9月頃からお店に

“クリスマス コーナー”が設置され、12月が近づくと大型スーパーの駐

車場に大きな特設会場ができ、その中もグッズやプレゼントでいっぱいになります。各家庭では、家の中に2mくらいの高さのツリーを飾ったり、家や庭を電飾や電動トナカイなどで美しく飾ります。ボサダというクリスマスのパーティーが友達同士や職場の仲間、家族の間などで頻繁に行われ、国中にクリスマスムードが漂います。

大晦日の晩は家族が集まり、ご馳走をいただき、新年を迎えます。(次のページ)





スペインでは、大晦日の晩、マドリッドの太陽の門（Puerta del sol）の鐘の音と共に 12 粒のブドウを食べると幸せが訪れる、と言われています。新年は 1 月 1 日だけが祝日で、2 日からは通常通りの生活に戻ります。

しかし、スペイン語圏のクリスマスはまだまだ終わりません。

1 月 6 日は Día de los Reyes Magos（東方三賢人の礼拝の日）を祝うため、クリスマスと同じくらい、どっさりプレゼントを貰います。メキシコではこの日、ロスカ（スペインではロスコン）という菓子パンを切り分けて食べますが、このパンの中に 2, 3 個プラスチック製の人形がはっていて、これに当たった人は 2 月 2 日にタマルというトウモロコシの皮で包んで蒸した料理をみんなにご馳走しなければなりません。



・・・と、このようにフィエスタ（パーティー）は続いていきます。



圣诞快乐！ 新年好！

(シャン ダーン クアイ ラウ！ シン ニアン ハオ！)



中国には「クリスマス」が 20 世紀後半に西洋から伝わってきました。しかし、西洋とは違い、中国の人にとって、「クリスマス」というのは家族で団らんする祭日ではなく、友達同士が集まり、食事をしたり遊んだりする日となっています。

特に最近、若い世代にとって、「クリスマス」はロマンチックな日というイメージが強く、この絶好のチャンスを利用して、好きな人に告白したり、デートしたりする若者が大勢います。



「春聯」と「福」

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、中国のお正月と言えば、新暦の 1 月 1 日ではなく、旧暦の一月一日（旧暦は新暦より 1~2 ヶ月遅れ、数字を漢字で記す）であり、中国では「春節」と呼ばれています。大晦日（旧暦の十二月三十日）の夜は日本に年越しそばを食べる習慣があるように、中国では、家族で水餃子を食べ、年を越す風習があります。また、中国では赤色は喜び事に使うめでたい色とされているため、家の中を赤色で装飾したり、赤い紙に「福」の字や縁起の良い対句（春聯<しゅんれん>という）を書いて門に貼ったりして、新年を迎えます。

中国の人は、旧暦のお正月に比べて、年のページがめくれる新暦の 1 月 1 日は盛大に祝うことはなく、どちらかと言いますと、この「元旦」を越せば、本番のお正月が近づいてくると、楽しみにしている人が多いです。



메리 크리스마스! 새해 복 많이 받으세요!

(メリクリスマス! セハ ボッマニ パドゥセヨ!)



年末年始が正月休みとなる日本とは違って、**韓国**では正月を旧暦で過ごすので、年末の大きいイベントはクリスマスになります。日本のように年賀状の文化がない韓国では、年末になると書店にクリスマスカードが並びます。キリスト教の信者が多く、クリスマスが祝日の韓国では、クリスマスにデートを楽しむカップルの他、教会で時間を過ごす人々も沢山います。

韓国では、新暦の1月1日を「新正 (シンジョン 신정)」、それに対して旧暦の1月1日を「旧正 (クジョン 구정)」と呼びます。韓国で正月(ソルナル설날)と言えば主に旧正のことを意味しますが、旧正には秋夕(チュソク、日本のお盆に当たる祝日。)と同じく前後合わせて三日間が祝日となります。正月には親族が一堂に会し、伝統衣装の韓服(ハンボク 한복)を着て、おばあさんとおじいさんに「새해 복 많이 받으세요!(あけましておめでとうございます。)」とお辞儀で挨拶をします。その後目上の人から徳談(トットァン 덕담、年長者からの祝いの言葉。)を聞き、子供達はお年玉の歳拝金(セベットン 세뱃돈)をもらいます。正月の朝には、みなでお餅の入ったスープのトックッ(떡국)を食べますが、韓国では正月にこのトックッを食べると、歳を一歳とると言われています。



★☆☆☆クイズ☆☆☆☆

①和歌山県と姉妹提携を結んでいるアメリカ・フロリダ州には、その特徴からあるニックネームがあります。それは次のうちどれでしょう。

1. Coastal State (長く美しい海岸線を有することから)
2. Orange State (オレンジの一大産地であることから)
3. Sunshine State (年間を通じ温暖な気候であることから)
4. Hurricane State (度々ハリケーンに見舞われることから)



②次の英単語はクリスマスに関連するものです。それぞれ何のことでしょう?

1. sleigh
2. Wreathe
3. reindeer



★★★和歌山県職員による「異文化体験」★★★

「相互学習」

皆さん、いかがお過ごしでしょうか？

私がここ山東省済南市に来てから、早いもので8か月が経過しようとしています。

今回は中国の大学等で広く行われている「相互学習」についてご紹介します。

「相互学習」は中国語で「互相学習（フーシャンシュエシー）」といいます。中国語を勉強している留学生と、その留学生の母国語を勉強している中国人の学生と一緒に勉強するという学習方法です。先生や友達を介して知り合うことが多いようです。

私は中国に来て間もなく、担任の先生から「日本語を勉強している学生がいるから一緒に勉強したら？」と、同じ大学の学生を紹介されました。

その学生は高さんといい、今年の3月から日本語の勉強を始めている、とのことでした。初めて高さんと会った時、彼女は日本語が全く話せず、まだひらがなとカタカナを覚えているところで、一方私のほうも、日本で中国語を一年勉強したものの、中国人と中国語で話をした経験があまりなかったため、コミュニケーションが上手くとれませんでした。しかし、高さんとは中国語でないと話が通じず、私の拙い中国語で、何とか相手に伝えなければならぬため、そのことが相当話す練習になりました。また、聞き取りの方も、留学生に聞き取り易いように話してくれる学校の先生とは異なり、彼女の発音や会話の速さは、まさに現地の中国語であったので、効果的な練習になりました。

現在でも週に1回は学校で会って、私は中国語、高さんは日本語で雑談をしたり、テーマを決めて、それについて議論するなど、会話の練習に励んでいます。また、相互学習を通じて中国の文化や、中国に入ってきている日本の文化を知ることができました。例えば、彼女は日本のアニメに興味があり、日本の歌も何曲か知っています。日本料理については、中国では寿司が有名であり、何度か食べたことがある、と教えてくれました。中でも、日本のアニメについてはお互いに知っているものがあり、主題歌と一緒に歌ったりもしました。一方で、中国で流行っている曲や、彼女の学生生活についての話等、中国のことを聞くこともできました。また、10月に私が一時帰国した際、高さんに梅干をお土産として買っていったのですが、その酸味にたいへん驚いていました。中国でも梅干に似た食べ物はあるようなのですが、味が全然違う（中国のものは甘い）、とのことでした。

語学学習の醍醐味は、こうして外国の人と会話し、その国の文化や人を知ることが出来る事だと思います。言葉が分からないままに海外に行くと、使われている言語や話し方が日本人とは異なるので、少々面食らってしまうかもしれませんが、実際に言葉を交わしてみると、考え方や話す内容等について、それほど日本人との違いは感じられません。

相互学習を通して、彼女の日本語が上達していくのを嬉しく思うのと同時に、私自身も刺激を受けており、時には真剣に、時には楽しく勉強することができ、とても充実した時間を過ごせています。





陸奥宗光シンポジウム（和歌山開催）

～和歌山県(紀州藩)が生んだカミソリ大臣、陸奥宗光と日本外交～

12月1日(土)に東京で開催された「陸奥宗光シンポジウム」は、申込者を大きく上回り、大反響となりました。県民の皆さまからは是非、地元和歌山でも開催して欲しいとの要望もあり、下記のとおり和歌山市でも開催しますので、ふるってご参加ください。



【岡崎研究所提供】

和歌山が生んだ明治期の偉人『陸奥宗光』は、明治期の藩閥体制下に政党による議会制民主主義を早くから考究し、日本のデモクラシーの礎を築くとともに、徴兵制度等の新制度を郷里和歌山でいち早く実践するなど近代明治日本の原点を構築しました。

外務大臣時代には日清戦争とそれに続く三国干渉の難局の打開に奔走し、治外法権の撤廃と安政条約の撤廃（関税自主権の回復）に尽力しました。我が国が近代国家として主権を回復し、19世紀の欧米列強がひしめく国際社会の仲間入りを果たしたその立役者は、まさに『陸奥宗光』です。

現代の日本は、尖閣諸島等の問題や拉致問題、駐留米軍にかかる諸問題等の喫緊の課題に直面しているのみならず、東日本大震災、原発問題、世界経済の悪化に伴う経済不況等が影を落とし、まさに国難の時代と言えます。このような現代社会においてこそ、民主主義の父、外交の父と言っても過言ではない『陸奥宗光』の功績を讃え、先人の偉大さ、先見の明、国家の命運を左右する外交の重要性を再認識し、日本国民としての誇りと自信を取り戻すきっかけとすべく、また近代日本の礎を築いた県人の事績を発信しその声価を高め、県民の県土への愛着と誇りを育むため、シンポジウムを開催します。

記

日 時：平成25年2月16日(土) 14:00～16:00

場 所：アバローム紀の国 2階 鳳凰の間（住所：和歌山市湊通丁北2丁目1-2）

申込先：和歌山県文化国際課

FAX 073-433-1192、メール e0221003@pref.wakayama.lg.jp

申込方法：チラシ裏面の申込書又はホームページからダウンロードした申込書にご記入の上 FAX するか、所定の電子メールに添付してお申し込みください。（事前予約制、全席自由）

(URL:<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022100/mutsu/mutsu.wakayama.html>)

出演者：

岡崎久彦 岡崎研究所理事長・所長、元外務省情報調査局長、元在タイ大使
仁坂吉伸 和歌山県知事

次第：

- ・ 岡崎久彦氏による基調講演
- ・ 岡崎氏と知事による対談

後 援：外務省、産経新聞社





★★★★あとかき★★★★

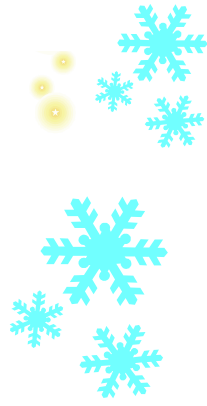
4月に文化国際課に来て、あっという間に8ヶ月が過ぎました。私事ではありますが、来年の4月から、業務のため中国山東省に派遣予定となっています。



「来年のことを話すと鬼が笑う」と言いますが、私は、今年の4月から、ずっと「来年の今頃は～」と言い続けてきました。当初は全く実感が伴っていませんでしたが、最近では、中国語の勉強や海外生活の準備を進めていく中で、少しずつ「来年は～」という言葉に重みが伴ってきたように思います。



鬼も、もう笑わないでしょうか。今年が静かに終わろうとしています。皆さまにとって、明るる年が良き1年であることをお祈りします。



★★★★クイズの解答★★★★



①の答え 3. Sunshine State

車のナンバープレートや看板などにも書かれていて、よく知られた州のニックネームです。また、1・3・4についても、その特徴は本当です。和歌山県との共通点が多いと思いませんか？

※参考 和歌山県とフロリダ州は1995年に姉妹提携協定を締結しました。また昨年、さらなる交流の深化を目的に、オレンジパートナーシップ協定を結びました。



フロリダ州のナンバープレートのイメージ

②の答え

- 1. そり
 - 2. リース、花輪
- } 発音に注意

3. トナカイ サンタクロースのソリを引くトナカイ。最も有名なのは歌にも登場する赤鼻のトナカイですが、Rudolphという名前が付いています。

※これらの単語はクリスマスソングにも多く登場するので、注意して聞いてみてください。

